

事務事業評価資料

施策名	環境学習・教育の総合的推進		所管部局課名	農政環境部環境創造局環境政策課					
事業名	幼児期の環境学習推進事業 (幼児生物多様性学習推進事業)		担当者電話番号	環境学習支援係 内線3398					
事業目的	自然体験等を通じて生命の大切さを学ぶ学習に取り組む幼稚園・保育所での環境学習を推進し、日常的な展開や生物多様性の保全への理解を促進することにより、幼児期から児童期への環境学習・教育の円滑な接続を図る。								
事業内容	「ひょうごグリーンサポーター」を新たにひょうごの体験型環境学習に取り組もうとする幼稚園・保育所に派遣し、職員研修の講師や幼児への指導のサポートを行う。			事業開始年度	平成19年度				
事業に要するコスト	区分	平成20年度決算額	平成21年度当初予算額	平成22年度当初予算額					
	事業費	(16,756千円) 16,756千円	(16,361千円) 16,361千円	(11,722千円) 11,722千円					
	人件費	847千円	836千円	820千円	従事人員 0.1人	従事人員 0.1人			
	総コスト(+)	17,603千円	17,197千円	12,542千円	従事人員 0.1人	従事人員 0.1人			
事業の目標	「日常性」「継続性」のある環境学習に取り組む幼稚園・保育所の全県展開			[目標設定理由] 家庭との連携・地域とのつながりを大切にした環境学習・教育の展開を図るため					
目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		20年度実績	21年度見込み	22年度目標	達成率(%)		
		目標値	年度				H20	H21	H22
	ひょうごっこグリーンガーデン事業実施園数	1,614 (累計)	H19~ H24	300 (累計 499) (59千円)	300 (累計 799) (57千円)	300 (累計1,099) (42千円)	30.9%	49.5%	68.1%
評価結果	必要性	・自らの自然体験を通じ、生命の大切さに気づく力を養う環境学習を幼稚園、保育所での年間及び1日の指導(保育)計画に位置づけてもらうことで展開を図っていく。 ・各園が「日常性」「継続性」のある環境学習に取り組む「きっかけ」とし、生物多様性の恵みを実感できる学びの場づくりに取り組むため、体験型環境学習の実践を支援する必要がある。							
	有効性	・幼児期における環境学習を実施することにより、児童期の小学校3年生「環境体験事業」、小学校5年生「自然学校推進事業」が効果的に行われる。							
	効率性	・幼児期の環境学習・教育を推進するために、幼稚園・保育所を主体とする環境学習・教育の実施が効率的である。							
	民間・市町との役割分担	・県内の市町立、私立の幼稚園、保育所などでの環境学習を地域と連携して実施。 ・県は、体験型環境学習に係る情報収集、手法・事例の紹介やノウハウの提供に努めるとともに指導現場の人材育成を支援し、地域は、子どもたちが自然と触れ合う場の提供や実地指導など各種支援を行う。							
	受益と負担の適正化	・地域・家庭における環境学習・教育の実践活動を支援するため、県の負担は適正である。 ・体験型環境学習は、園が経費を負担して実施するものであるが、新たに開発する体験プログラム経費、「ひょうごグリーンサポーター」派遣経費及び研修に係る経費については県が負担する。							
実施方針	方向性	新規	拡充	継続	実施手法の見直し				
	実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	PFI	負担割合変更	事務改善	その他	
説明	・幼稚園・保育所が「日常性」「継続性」のある環境学習に取り組む「きっかけ」とし、生物多様性の恵みを実感する学びの場づくりに取り組むために、「体験プログラム開発・実践事業」や「環境学習実践研修」を実施するとともに、21年度まで園・所へ補助金を交付していた「ひょうごっこグリーンガーデン実践事業」をひょうごグリーンサポーターを派遣し、園・所の職員研修の講師や幼児への指導のサポートを行う「ひょうごっこグリーンガーデンサポート事業」へと見直して実施する。								